

■第19回日本緩和医療薬学会年会 症例報告リスト

発表時間:発表5分、質疑応答2分、合計7分

日付	会場	セッション名	座長	座長所属機関名	発表時間	発表形式	演題番号	筆頭演者氏名	筆頭演者所属機関名	演題名
5月31日 (日)	第9会場 和歌山県立医科大学 薬学部 実習室301 14:00-14:56	症例報告セッション1	今村 牧夫	一般財団法人 倉敷成人病センター	14:00-14:07	オンライン	31CR1-01	小園 友明	愛知医科大学病院薬剤部	多面的な薬物療法によりオピオイド使用量を大幅に減量し疼痛コントロールを得た神経障害性疼痛の一例
					14:07-14:14	オンライン	31CR1-02	明野 愛	名古屋記念病院 薬剤部	難治性がん性疼痛で苦しむStageIV肺がん患者とその家族が抱える精神的苦痛
					14:14-14:21	現地	31CR1-03	林 良亮	名古屋記念病院薬剤部	病棟薬剤師が患者指導を通じて未成年の子どもを含めた家族ケアに関与した症例
					14:21-14:28	現地	31CR1-04	越東 愛可	社会医療法人寿楽会 大野記念病院 薬剤部	経口から注射へのオピオイドスイッチングにより、化学療法継続と在宅復帰に寄与した症例
					14:28-14:35	現地	31CR1-05	土本 希	泉大津急性期メディカルセンター 薬剤科	がん治療中の疼痛を再評価し強オピオイド使用を回避し得た一症例
					14:35-14:42	現地	31CR1-06	萬谷 摩美子	医療法人愛和会 愛和病院 薬局	メサドンの使用により疼痛改善された患者の経口不能となった際のオピオイドスイッチングの一例
					14:42-14:49	現地	31CR1-07	小池 紗世	川崎市立川崎病院 薬剤部	手指および足趾の末梢壊死における難治性疼痛にメサドンを使用した1例
					14:49-14:56	現地	31CR1-08	田口 諒	静岡県立静岡がんセンター 薬剤部/緩和ケアチーム	メサドンとプレガバリンの投与タイミングの工夫により陽子線治療を実施できた1例
	第9会場 和歌山県立医科大学 薬学部 実習室301 15:00-15:49	症例報告セッション2	周治 由香里	東京女子医科大学附属足立医療センター	15:00-15:07	現地	31CR2-09	奥津 雄人	日本赤十字社医療センター 薬剤部	緩和ケアチームを含む多職種介入、及びオピオイドの使用によって、ACPが進んだ間質性肺炎の一例
					15:07-15:14	現地	31CR2-10	野尻 美津紀	熊本労災病院 薬剤部	タベンタドールの販売中止に伴いオキシコドン製剤と鎮痛補助薬で疼痛コントロールを図った在宅緩和ケア患者の1症例
					15:14-15:21	現地	31CR2-11	後藤 愛実	後藤オンコロジークリニック	短腸症候群におけるレボチロキシナトリウム注射液 週1回投与により在宅療養が可能になった一例
					15:21-15:28	現地	31CR2-12	井手 陽子	さくら薬局久留米大学病院前店	オピオイド減量に伴う疼痛コントロール悪化に対し、服用期間中フォローアップにより自己判断による服用を是正した1症例
					15:28-15:35	現地	31CR2-13	折戸 真澄	タイガープライム(株)タイガー薬局	緩和薬物療法における在宅協力薬局制度の有用性:未経験薬局による終末期対応を支援した症例
					15:35-15:42	現地	31CR2-14	白井 牧子	たかやま調剤薬局	8か月の在宅緩和ケアを支えた多職種協働とPCAポンプ希釈調整の工夫~薬剤管理の視点から~
					15:42-15:49	現地	31CR2-15	植田 泰豊	株式会社薬國堂志都美薬局	オピオイド抵抗性の末期癌性疼痛に対して、鎮痛補助薬併用療法を行った1症例